



Innovation meets fascination.

## Axano

デンツプライシロナトリートメントセンターの  
フラッグシップモデルAxano。  
イノベーションが日々の診療に“ときめき”を  
生み出します。



Simply do more.

## Axano Pure

Axano Pureは、より少ない  
労力でより多くの作業を実現  
するためのテクノロジーです。  
簡潔に言えば——もっとシン  
プルに、もっと多くを。



More efficiency.

## Sinius

効率性と快適性、そして美し  
さを備えたバランスに優れた  
トリートメントセンターです。



Performance you can rely on.

## Intego Pro

Intego ProはIntegoの上位  
モデルとして、より高い機能と装  
備で診療ワークフローを効率化  
します。



Performance you can rely on.

## Intego

人間工学に基づいた快適性と  
効率性、スタイリッシュで優美な  
デザインはそのままにシンプ  
ルな構成のパフォーマンスクラ  
スのトリートメントセンターです。



動画でわかりやすくご紹介!

「エンドドントリストとして  
ユニットに求めるものとは」



一般的名称: 歯科用ユニット (歯科用根管長測定器) 販売名: トリートメントセンター Axano 認証番号: 304AABZX00055000 管理医療機器 特定保守管理医療機器 設置管理医療機器  
一般的名称: 歯科用ユニット (歯科用根管長測定器) 販売名: シロナ SINIUS 認証番号: 224AABZI00065000 管理医療機器 特定保守管理医療機器 設置管理医療機器  
一般的名称: 歯科用ユニット (歯科用根管長測定器) 販売名: シロナ INTEGO pro 認証番号: 228AABZI00067000 管理医療機器 特定保守管理医療機器 設置管理医療機器  
一般的名称: 歯科用ユニット (歯科用根管長測定器) 販売名: シロナ INTEGO 認証番号: 226AABZI00151000 管理医療機器 特定保守管理医療機器 設置管理医療機器

デンツプライシロナ株式会社

〒104-0061 東京都中央区銀座8-21-1 住友不動産汐留浜離宮ビル5F

カスタマーサービスホットライン 0120-667-467

www.dentsplysirona.com

Dentsply  
Sirona

MRK0400000189\_202604\_BT10701YU

# TREATMENT CENTERS REPORT.

TOKYO INSTITUTE OF ENDODONTICS  
Dr. Toshinori Tanaka

東京歯内クリニック  
田中 利典 先生



by Dentsply Sirona Treatment Centers

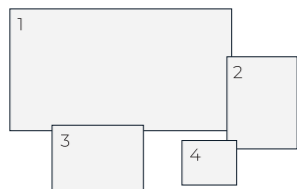
# 東京歯内クリニック

東京都杉並区

東京歯内クリニックは、米国で歯内療法を専門的に学んだ田中院長が、帰国後15年にわたり紹介患者の治療に携わってきた経験をもとに開設された。近年は、「歯をできるだけ残したい」という患者の想いが一層高まり、専門的な診療を求める声も増えている。そうした背景の中で、医療連携を社会により浸透させていくこれからの日本にとって、身近な診療連携先として頼りになる存在でありたいという願いが、このクリニック誕生のきっかけとなった。地域のかかりつけ医とともに、安心して相談できる場としての役割を大切にしながら、専門性をいかして寄り添う診療を目指している。



(左) 勤務医 吉田 麻莉 先生  
(中央) 院長 田中 利典 先生  
(右) 副院長 望月 綜太 先生



1.2.3. 医院の顔となる受付と待合は初めての患者さんが緊張しないよう広く空間を取っている  
4. 院長の田中先生は2010年米国コロンビア大学歯学部歯内療法専門プログラム修了

## エンドンティストとしてユニットに求めるもの

東京歯内クリニックでは、ユニットはデンツプライシロナのSinusを採用いただいています。エンドンティストとしてユニットに求めるもの、そしてSinusの使い心地についてのご意見をいただきました。

**田中先生**「歯内治療専門クリニックでは依頼部位の治療に特化するため、診療時間が長い一方で来院回数は限られます。少ない接点の中で患者さんに安心して治療を受けてもらうには、診療の流れを途切れさせず、術者が精度の高い処置に集中できる環境が欠かせません。その意味でユニットは、治療の進行を支える中心的な役割を担っています。長時間の姿勢変化が難しい診療では、頭位や体位を細かく調整しやすい設計があることで、視野を安定させながら処置を進めやすくなります。また、衛生管理のわかりやすさは日々継続するうえで重要なポイントとなります。エンドンティストにとってユニットは、精密な処置、衛生的な診療環境、効率的なワークフローを支える基盤であり、専門診療を安定して提供するための欠かせない存在といえます。」

**望月先生**「現代の歯内療法では、マイクロスコープやCT、NiTiファイルなどの機器が広く活用されていますが、チェアもまた治療を円滑に進めるための環境要素の一つとして重要だと考えます。術者はマイクロスコープ下で繊細な操作を続ける場面が多いため、無理のない姿勢を取りやすいポジショニングや、頭位を細かく調整しやすい設計があると作業に集中しやす感じられます。また、超音波機器の使用に配慮したレイアウトや、作動音・振動が抑えられた

設計は、落ち着いた診療環境づくりに寄与し得ます。さらに、患者さんが身体的負担を感じにくい姿勢を保ちやすいことは、術者の作業のしやすさにもつながり、安心して治療に臨みやすい雰囲気醸成に役立つと感じています。」

**吉田先生**「チェアは、治療を進めるうえで術者の集中と作業のしやすさを支える環境要素の一つであると考えています。若手として臨床を重ねる中で、治療技術の向上には、術者だけでなく患者さんが過ごしやすい環境づくりも大切だと実感するようになりました。マイクロスコープを使い始めた当初は、自身の姿勢や患者さんの体勢まで十分に配慮できない場面もありましたが、運用に慣れ、長時間の診療が増えるにつれて、無理のない自然な姿勢を保てることが集中の維持に寄与すると感じています。その点で、マイクロスコープ使用中でも視線を大きく動かさずに体位の微調整を行いやすく、ヘッドレスト角度をフットコントローラーで操作できるといった機能は、作業の流れを乱しにくいという意味で助けになります。Sinusについては、こうした操作性が私見として身体的負担を抑えやすく、落ち着いて処置に向き合える環境づくりを後押ししていると感じています。」



## 患者さんの快適性

デンツプライシロナのユニットは人間工学に基づいて設計されており、患者さんと術者の双方の負担に配慮したユニットは、よりよい治療につながるという考えに基づいています。根管治療は一度の治療時間が長く、先生方がどのように感じておられるか、「患者さんの快適性」「術者にとっての快適性」と分けてお聞きしました。

**田中先生**「歯内治療では、1回あたりの診療時間が長く、患者さんはおよそ90分間チェアに横になって過ごします。視界がゴーグルやフェイスタオルで遮られる中では、姿勢の変えにくさも相まって、聴覚・嗅覚・触覚が敏感になりやすく、周囲の環境が治療体験に大きく影響します。そのため、シートの座り心地や硬さ、首や腰への負担、チェア動作の静かさや滑らかさ、起き上がる際の位置関係といった、細やかな要素への配慮が欠かせません。自然なS字カーブを保ちやすい姿勢や、頭部や下肢を微調整できる構造は、長時間でも落ち着いて過ごしやすい環境づくりに寄与します。これらの要素が組み合わさることで、患者さんが“過ごしやすい”と感じられる時間につながり、安心して治療に臨める空気を支えてくれます。」

**望月先生**「ラバーダム装着下では姿勢の自由度が限られるため、包み込まれるような座り心地や安定感のある支持は、患者さんが時間の長さを意識しにく

いという意味で役立つ印象です。静音性や振動の少ない作動感、緊張の高まりを抑える一因になると感じています。実際、休憩時に自分自身がチェアで横になると、身体への局所的な圧が強くなり出すと感じる場面があり、長時間の処置における“過ごしやすさ”に配慮された設計であることを実感します。」

**吉田先生**「若手の頃は処置に集中するあまり、患者さんの姿勢負担にまで配慮が行き届かないことがありましたが、長時間の根管治療を重ねる中で、チェアが提供する安定感の重要性を実感しました。身体を包み込むような支持と頭位の微調整がしやすい環境は、体格差のある方や小柄な方でも姿勢が崩れにくい印象です。結果として“動きたい”気持ちが生じにくく、処置を落ち着いて受けただけだと感じます。女性の視点として、こうした身体的負担に配慮された環境づくりこそが、患者さんが安心して治療を受けるための重要な要素だと考えています。」



## 術者にとっての快適性

**田中先生**「術者にとって長時間の歯内治療に集中できる環境は、診療の質を安定させる上で欠かせません。患者さんの体勢が無理なく保たれることで、術者は過度な姿勢調整に気を取られず、治療の流れを乱さずに作業を進めやすくなります。特にマイクロスコープ下では、わずかな体動でも視野が大きく変化するため、患者さんが自然な姿勢を保ちやすいユニット設計は重要な要素といえます。また、視線を外すことなくチェアやヘッドレストを手元・足元で微調整できる操作性は、スムーズなワークフローに寄与します。ワイヤレスフットコントローラーの活用により、外科処置時にも清潔域を保ちながら必要な操作が行いやすい点も助けになります。こうした機能の積み重ねにより、視線移動や治療の中断が少なくなり、精密な処置に専念しやすい診療環境が整うと感じています。」

**望月先生**「エンド治療ではマイクロスコープ下で繊細な操作が続くため、無理のない姿勢を保ちやすいユニット設計があると作業に取り組みやすと感じます。私は、タッチ操作で背板の向きや頭位の角度を

呼び出せる Sinus のメモリー機能を日常診療で活用しています。1歯単位で診療を行う歯内治療では、マイクロスコープの位置に合わせて上顎・下顎それぞれの基本ポジションを設定しておくことで、姿勢の調整に時間を取られにくく、スムーズに治療へ移行しやすく感じています。快適に、同じ姿勢と視野を再現しやすい環境が整うことで、結果的に治療へ落ち着いて向き合えると考えています。」

**吉田先生**「根管治療は長時間に及ぶことが多く、特に女性術者にとっては、患者さんの体格差による身体的負担を感じやすい治療分野です。そのため、チェアの可動域が広く、高さや角度を細かく調整できることは、無理のない姿勢を維持しながら治療に集中しやすくする要素だと感じています。術者の身体的負担を軽減しやすい環境は、結果として集中力の維持につながりやすく、治療の精度を支える一因になると感じています。また、小児患者さんにおいても、専用のブースターチェアを使用することで体勢の調整が行いやすくなり、安定した診療につながる場面があると感じます。」



## 衛生管理について

適切な感染管理は患者さんと術者双方の安全を守るために欠かせません。  
少ない手順で効率的な衛生管理ができるように設計されたSinusの使用感をお聞きました。

**田中先生**「Sinus を導入した背景には、ヨーロッパで採用される RKI ガイドラインを参考にした感染管理の手順がユニットに組み込まれている点がありました。使用薬剤や処理時間、患者ごとの清掃、終業時の作業、月次メンテナンスまでが整理されており、迷わず実施しやすいことは術者にとって大きな安心材料になります。さらに、歯内治療では次亜塩素酸ナトリウムを多く扱いますので、吸引ホース周囲の素材への配慮や、残留薬液を洗い流しやすい専用の洗浄機能は、日常管理と器材の劣化抑制の両面で有効です。こうした仕組みが診療フローに自然に組み込まれることで、患者さんが落ち着いて治療を受けられる環境を安定して整えやすくなると考えています。」

**望月先生**「衛生管理は、安全で質の高い医療を考えるうえで重要な基盤だと考えています。歯内治療では無菌的操作が結果に直結するため、ユニットには清掃や消毒を行いやすい構造や、日常的な手順を実

施しやすい設計が望ましいと考えます。Sinus では、フラットで凹凸の少ないブラケットテーブルや、タッチパネルのクリーニングモードなど、汚染部位と清潔域の区分を意識した設計となっていると感じています。また、オートページによる給排水系の清掃やバキューム性能の安定性も、治療環境全体の清潔さを支える重要な要素だと考えています。」

**吉田先生**「根管治療は無菌的操作と感染管理への配慮がとても重要であるため、日常臨床でも衛生管理を強く意識しています。清掃しやすいシンプルな構造や設計は、日々の手順を確実に実施しやすくなるうえで有効だと感じます。部位の凹凸や複雑さが少ないことは、清拭やバリア交換の手戻りを減らしやすく、結果として清潔な状態を保つ取り組みを継続しやすい環境につながります。こうした運用のしやすさが整うことで、術者は手順に迷いにくく、落ち着いて処置に向き合えると実感しています。」

